日刊 動労千葉
86. 2. 12
No. 2165
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二(22)七二〇七

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉砕！

2/9 国鉄労働者 全国討論交流集会 圧倒的に成功

2・9千葉県教育会館において、「国鉄労働者全国討論交流集会」が開催され、動労千葉を始め、全国から四〇〇名を越す国鉄労働者が結集し、埼玉大学教授・鎌倉孝夫氏と中野委員長の講演を受けたのち、活発な討論を展開し、「分割・民営化」粉砕、「61・3ダイ改」阻止へ、断固怒りのストライキで反撃することを誓いあった。

中曽根打倒以外 労働者の生きる道はない

会場は、集会の始まる十時前より動労千葉、国労を始めとする多くの国鉄労働者の熱気であふれていた。集会は、布施書記長の司会のもと、まず主催者挨拶として山口副委員長が立ち、線見阻止闘争の報告と、第二波ストライキへ向けた決意を明らかにした。

直ちに講演に入り、最初に埼玉大学教授・鎌倉孝夫氏から、「第二次中曽根改造内閣と国鉄分割・民営化」と題する講演を受けた。鎌倉氏は、「分割・民営化」の凶暴な本質をあますところなく暴露するとともに、「中曽根内閣は、国鉄・教育を始めすべての範囲でマスコミを使い問答無用の攻撃をやっているが、中曽根の本質はヒトラーの思想と全く同じで、強いものが弱いものを切り捨てていくファシストの思想そのものである」ことを明らかにし、さらに今日の、学校での「イジメ」問題を例にとりながら、これは、中曽根の政治と全く同じであること、従って、中曽根を打倒しないかぎりわれわれの生きる道はないと、力強く訴えられた。

第二波ストから全国へ ―中野委員長講演―

昼食後、中野委員長から「十万人首切り攻撃と国鉄労働者の課題」と題する講演を受けた。中野委員長は、「国鉄分割・民営化」の本質は、大資本が国鉄を食い物にし、国鉄労働運動を解体するところにあり、われわれの第一波ストによりそのことが満天下に明らかにされた。今こそ全ての力を結集し、中曽根と対決しようと明快に提起するとともに、現在、線見阻止を勝利的に展開していること、団交の山場二・一四～二・一五には成田を中心に第二波ストで闘い抜くことを明らかにした。

また、全国北から南まで、全国で国鉄労働者集会を開催することを提起、怒りの総反撃に打って出ることを訴えた。

全国の仲間がスト決起を決意

討論の最初に、千葉の仲間が立ち、国労中央の屈服をはねのけ「61・3ダイ改」―業務移管阻止の線見阻止闘争に断固決起している報告をおこなった。

つづいて秋田、長崎、広島、大阪、東京など多くの職場から闘いの報告と国鉄ゼネストの実現へ断固闘い抜く決意が明らかにされた。

次に、動労千葉津田沼支部の山下支部長・千葉運転区支部永田支部長・新藤本部青年部長から、それぞれ報復的不当処分を粉砕し、分割・民営化粉砕―十万人首切り阻止、中曽根打倒へ何度でもストライキに立つという断固たる決意があきらかにされた。

この決意を全体で確認し、最後に中野委員長の団結ガンバローで集会を終了した。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！